

# 保健室を訪れる児童の実態調査

恵土 孝吉・関戸裕美子・中村 芳子・村西 淳子  
 藤森 敦子・東 万里・池田 幸應

## I はじめに

学校における児童や生徒の健康と生活を守るために各校に養護教諭が保健室に配属されている<sup>1)</sup>。

保健室を訪れる児童には切傷やすり傷等の外科的主訴・頭痛や腹痛の訴え、また、心身上や学校生活における悩み等がもたらす不定愁訴等の内科的主訴があり、中には欲求不満のはけ口を求めて等、様々な来室目的があるが、外科的・内科的主訴の2者が占める割合は大きいものである。

外科的主訴については比較的原因がはっきりしており、その程度についても客観的にわかり易いものであるが、一方、内科的主訴の場合、程度や原因等がえてして把えにくいことが多い。そこで私達はこの内科的主訴に注目し、内科的主訴の全体的傾向や主訴の背景となっている生活行動について石川県下の児童を対象に調査することを試みた。

## II 研究方法

### 1 調査期間・場所

期 間・昭和 56 年 9 月 1 日～12 月 25 日 (延べ 95 日間)

調査場所・調査者の勤務校

### 2 調査対象

調査者の勤務校 児童、1,693 名、53 学級を対象とした。(表 I)尚、学年、性別等を表 2 に示した。

表 1 調査対象校

調査校	在 校 地	児 童 数 (名)			学級数
		男 子	女 子	総人数	
A 校	七 尾 市	162	143	305	12
B 校	羽 咋 郡	223	229	452	12
C 校	金 沢 市	242	219	461	13
D 校	松 任 市	199	151	350	10
E 校	小 松 市	66	59	125	6
総 計		892	801	1,693	53

表 2 学年別人数

		児 童 数 (名)		
学年	性別	男	女	計
		1 年	170	147
2 年		158	132	290
3 年		157	138	295
4 年		133	139	272
4 年		144	120	264
6 年		130	125	255
計		892	801	1,693

昭和 58 年 12 月 26 日受理

### 3 調査方法

保健室来室児童のうち内科的主訴を持つ児童について1名1枚の個人カードを用い、養護教諭が各項目について問診記入した。(表3)

表3 問診カード

月 日 曜日・天候		年		男・女		
午前 午後		時 分 ( 限目 )				
症       状	・ 頭 痛 (部位	性状		)		
	・ 腹 痛 ( "	"		)		
	・ 嘔 吐 (	)				
	・ 気持ちが悪い					
	・ からだがだるい					
	・ 貧 血 (	)				
	・ そ の 他 (	)				
	・ 体 温	時	分	度	脈拍	回
問     診	・ 発症時間					
	・ 朝 食 有 ・ 無 (量, 内容	食欲		)		
	・ 排 便 有 ・ 無 (	)				
	・ す い 眠	時	分	～	時	分
	・ 登校前の様子 (	)				
	・ 前日の様子 (	)				
	・ 原 因 (	)				
処   置	・ 授業を続けながら様子を見る					
	・ 保健室で休養する	時	分	～	時	分
	・ 早退する	時	分	限目		
	・ そ の 他 (	)				
観 察 ・ 所 見						

#### 4 調査内容

①月日、②曜日、③天候、④学年、⑤性別、⑥来室時間、⑦症状、⑧発症時間、⑨朝食摂取状況、⑩排便状況、⑪睡眠時間、⑫登校前の様子、⑬前日の様子、⑭原因、⑮処置について調査した。

尚、期間中に回収した個人カードは409枚であり、調査項目の中には記入不明なカードや聞き取り不十分なカードがあったため、総件数が少なくなっている項目もある。

### III 結 果

#### 1 来室状況

##### (1) 主訴別割合

内科的主訴をもって保健室を訪れた児童409名の主訴内訳を図Iに示した。

主訴別の割合は頭痛が最も多く43.0%、次いで腹痛24.9%であり、最も少いのは脳貧血の1.2%であった。

男女別に主訴の割合をみると男子で最も多いのは頭痛14.7%、女子では同じく頭痛で、28.4%、次いで多いのは男子では腹痛10.3%、女子では同じく14.7%であった。

##### (2) 男女別来室状況

男女別来室状況を表4に示した。

来室者総数のうち、男子は35.9%、女子は64.1%で女子が男子を大きく上回っていた。

##### (3) 男女別主訴

男女別の主訴を図2に示した。

男子では最も多いのは頭痛40.8%、次いで腹痛28.6%、倦怠感12.2%と続いている。

女子では最も多いのは頭痛44.3%、次いで腹痛22.9%、倦怠感13.0%と続いている。

##### (4) 来室時間帯

児童の保健室来室時間帯を図3に示した。

最も多く保健室を訪れた時間帯は3限～昼休みの44.5%であり、次いで1限～2限41.3%であった。

このうち男子で最も多いのは3限～昼休み(17.8%)であり、女子では1～2限(29.8%)であった。

##### (5) 来室時間帯別主訴

来室時間帯と主訴との関係を図4に示した。

始業前の来室で最も多いのは腹痛36.9%、次いで頭痛32.0%、倦怠感16.0%と続いている。このうち男子で最も多いのは腹痛(12.0%)であり、女子では頭痛(28.0%)であった。

1限～2限の間で来室で最も多いのは頭痛44.4%、次いで腹痛22.5%、倦怠感13.0%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛(10.7%)であり、女子では男子と同じく頭痛(33.7%)であった。

3限～昼休みの来室で最も多いのは頭痛42.9%、次いで腹痛24.7%、倦怠感13.2%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛(17.6%)であり、女子では男子と同じく頭痛(25.3%)であった。

5限以後の来室で最も多いのは頭痛44.4%、次いで腹痛29.6%と続いている。

このうち男子で最も多いのは頭痛(22.2%)であり、女子では男子と同じく頭痛(22.2%)

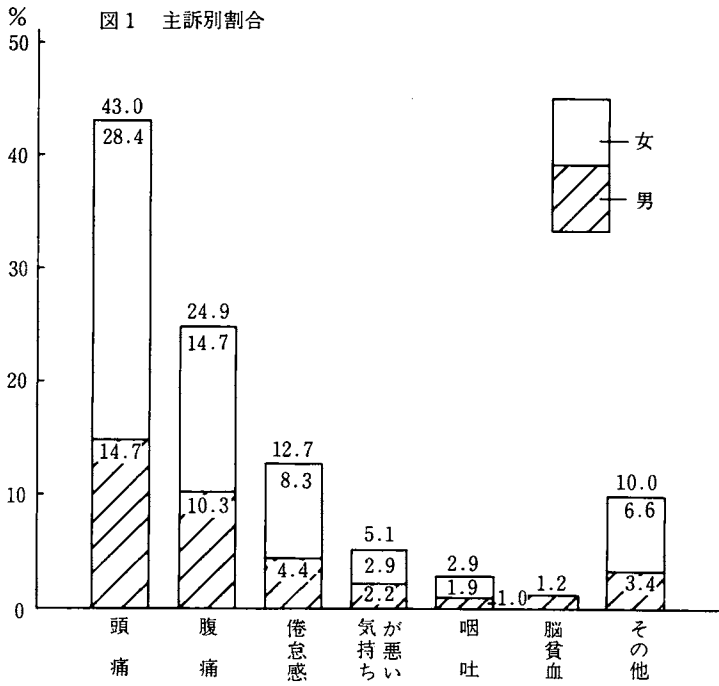
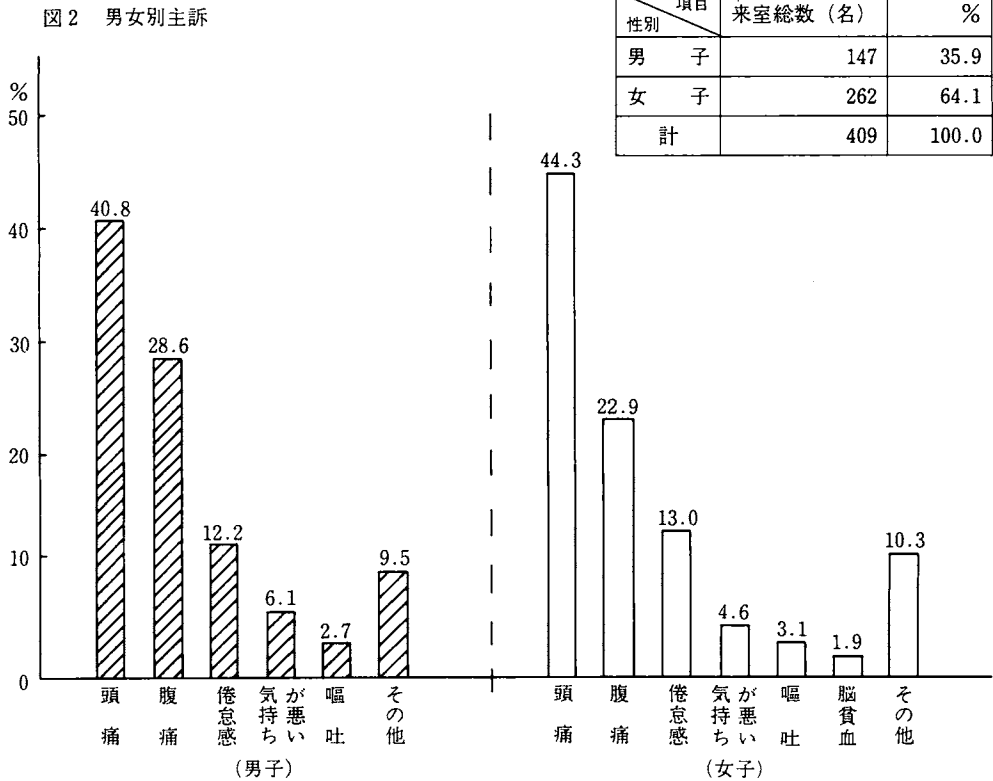


表4 男女別来室状況

性別	項目	来室総数 (名)	%
男子		147	35.9
女子		262	64.1
計		409	100.0



であった。

## 2 発症状況

### (1) 発症時間

発症時間を図5に示した。

最も多いのは登校後55.3%であり、次いで昨日から21.0%、朝から20.3%と続いている。このうち男子で最も多いのは登校後(23.5%)であり、女子では男子と同じく登校後(31.8%)であった。

### (2) 発症時間別主訴

発症時間と主訴との関係を図6に示した。

昨日からの発症で最も多いのは頭痛47.7%、次いで腹痛16.3%、倦怠感16.3%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛(15.1%)であり、女子では男子と同じく頭痛(32.6%)であった。

朝からの発症で最も多いのは頭痛39.8%、次いで腹痛26.5%、倦怠感18.1%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛(15.7%)であり、女子では男子と同じく頭痛(24.1%)であった。

登校後からの発症で最も多いのは頭痛42.0%、次いで腹痛27.9%、倦怠感10.2%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛(17.7%)であり、女子では男子と同じく頭痛(24.3%)であった。

## 3 学年別来室状況

### (1) 来室者総数に対する学年別割合

来室者総数に対する学年別の割合を図7に示した。

最も多いのは4年生、5年生で共に23.4%、次いで3年生16.9%、6年生14.2%、と続いている。このうち男子で最も多いのは5年生(11.2%)であり、女子では4年生(18.8%)であった。

### (2) 学年人数に対する来室児童数の割合

各学年の総人数に対する各学年来室者延人数の割合を図8に示した。

最も多いのは5年生73.6%であり、次いで4年生69.7%、3年生47.8%、6年生45.9%と続いている。このうち男子で最も多いのは5年生(31.9%)であり、女子では4年生(55.4%)であった。

### (3) 学年別主訴

学年別主訴状況を図9に示した。

1年生で最も多いのは頭痛37.2%、次いで腹痛29.4%、と続いている。このうち男子で最も多いのは腹痛(15.7%)であり、女子では頭痛(23.5%)であった。

2年生で最も多いのは頭痛33.3%、次いで腹痛28.2%、と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛(15.4%)、女子では男子と同じく頭痛(17.9%)であった。

3年生で最も多いのは頭痛42.0%、次いで腹痛30.6%、倦怠感14.7%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛(15.9%)であり、女子では男子と同じく頭痛(26.1%)であった。

4年生で最も多いのは頭痛44.8%、次いで腹痛19.8%、倦怠感16.7%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛(9.4%)で女子では男子と同じく頭痛(35.4%)であった。

5年生で最も多いのは頭痛52.1%、次いで腹痛19.8%、倦怠感11.5%と続いている。このう

図3 来室時間帯

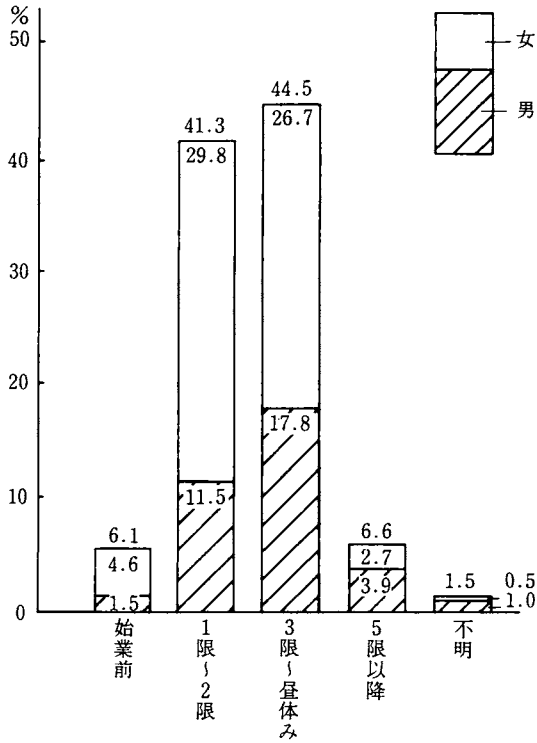


図5 発症時間

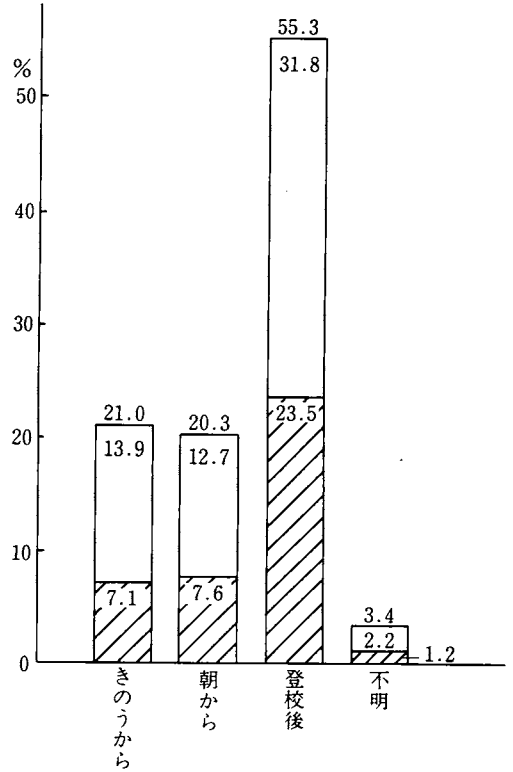


図4 来室時間帯別主訴

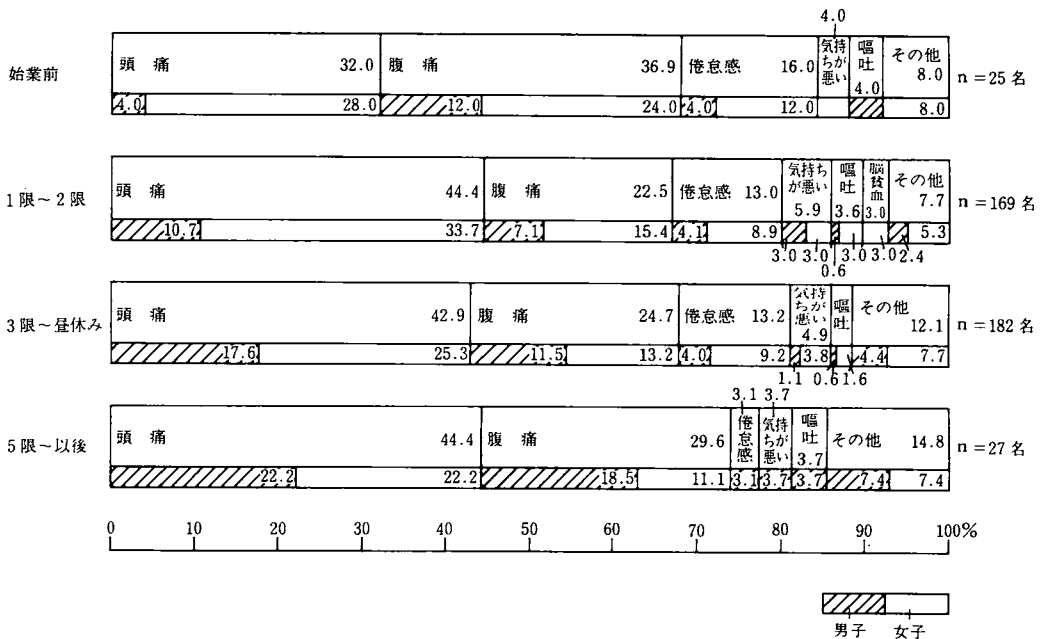


図6 発症時間別主訴

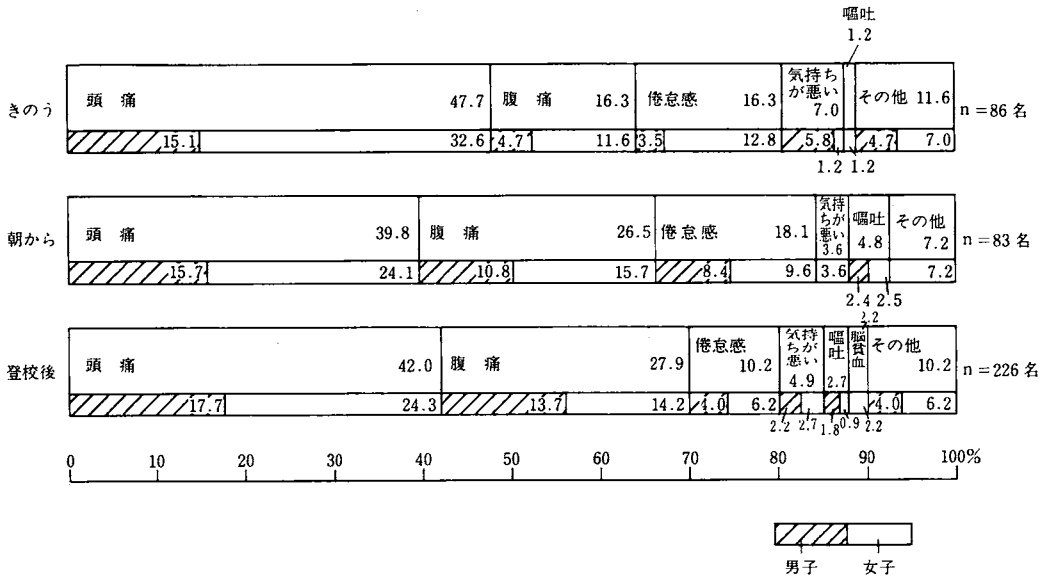


図7 来室者総数に対する学年別割合

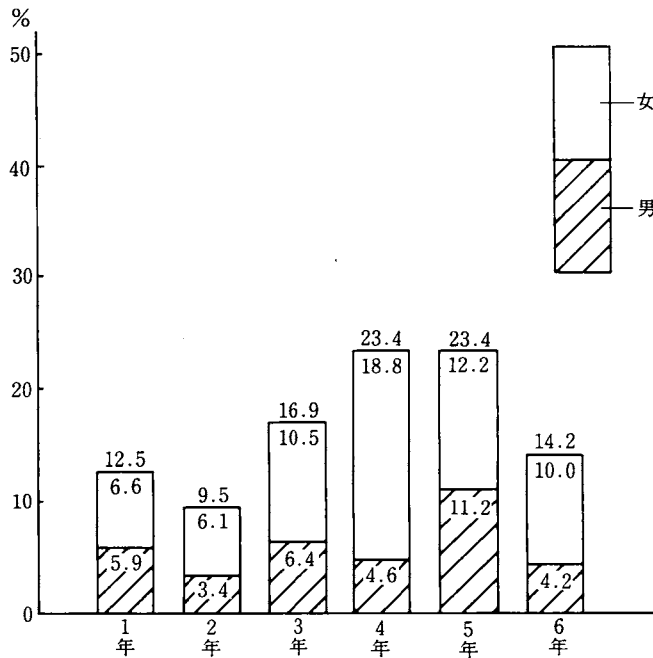


図8 各学年人数に対する来室児童数の割合

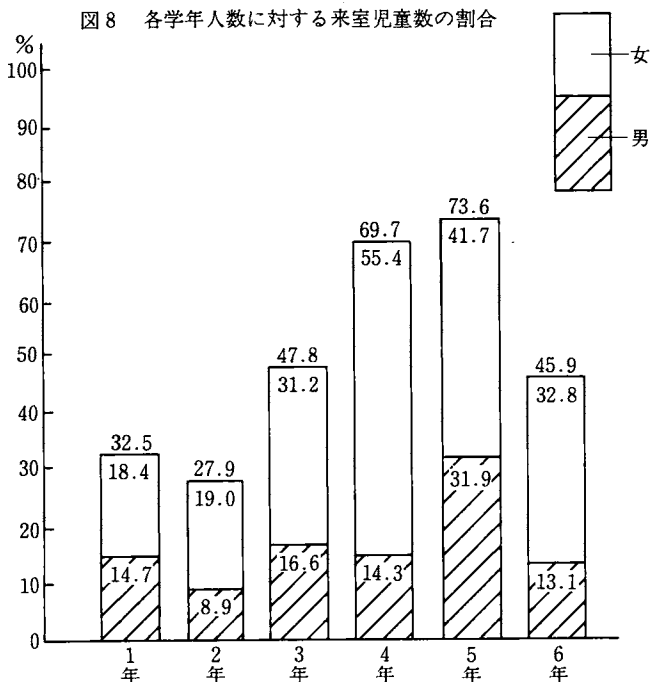
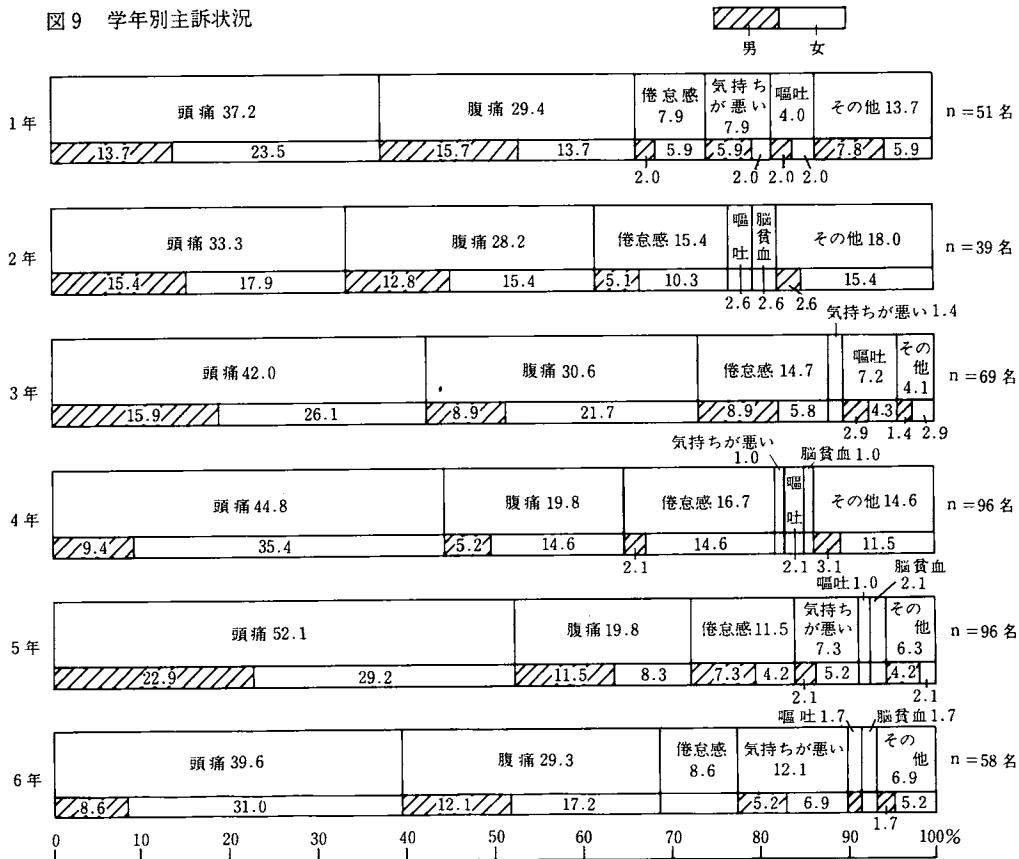


図9 学年別主訴状況





ち男子で最も多いのは頭痛（22.9％）であり、女子では男子と同じく頭痛（29.2％）であった。

6年生で最も多いのは頭痛39.6％、次いで腹痛29.3％、気持ちが悪い12.1％と続いている。このうち男子で最も多いのは腹痛（12.1％）であり、女子では頭痛（31.0％）であった。

#### 4 曜日別来室状況

##### (1) 曜日別割合

曜日別の来室状況を図10に示した。

最も多いのは月曜日21.6％、次いで水曜日19.6％、木曜日17.8％、と続いている。このうち男子で最も多いのは水曜日（8.1％）であり、女子では月曜日（14.6％）であった。

##### (2) 曜日別主訴

曜日別主訴状況を図11に示した。

月曜日で最も多いのは頭痛38.2％、次いで腹痛28.1％、倦怠感14.6％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛（14.6％）であり、女子では男子と同じく頭痛（23.6％）であった。

火曜日で最も多いのは頭痛53.6％、次いで腹痛20.2％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛（18.8％）であり、女子では男子と同じく頭痛（34.8％）であった。

水曜日で最も多いのは頭痛45.0％、次いで腹痛17.5％、倦怠感15.0％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛（15.0％）であり、女子では男子と同じく頭痛（30.0％）であった。

木曜日で最も多いのは頭痛41.1％、次いで腹痛21.9％、倦怠感19.2％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛（17.8％）であり、女子では男子と同じく頭痛（23.3％）であった。

金曜日で最も多いのは頭痛43.5％、次いで腹痛32.3％、倦怠感9.7％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛（12.9％）と腹痛（12.9％）であり、女子では頭痛（30.6％）であった。

土曜日で最も多いのは腹痛35.3％、次いで頭痛32.4％、倦怠感11.8％と続いている。このうち男子で最も多いのは腹痛（17.6％）であり、女子では頭痛（20.6％）であった。

#### 5 朝食摂取状況

朝食摂取状況を図12に示した。

朝食を摂取してきた者は87.0％、未摂取の者8.3％、不明4.7％であった。男女別にみると朝食を摂取してきた者のうち男子は30.8％、女子56.2％、未摂取では男子3.4％、女子4.9％であった。

##### (2) 朝食摂取状況と主訴

朝食摂取の有無と主訴との関係を図13に示した。

朝食を摂取した者のうち最も多いのは頭痛43.0％、次いで腹痛25.0％、倦怠感13.0％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛（15.0％）であり、女子では男子と同じく頭痛（28.0％）であった。

未摂取で最も多いのは頭痛38.0％、次いで腹痛26.0％、倦怠感21.0％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛・倦怠感（12.0％）であり、女子では男子と同じく頭痛（26.0％）であった。

図 10 曜日別来室状況

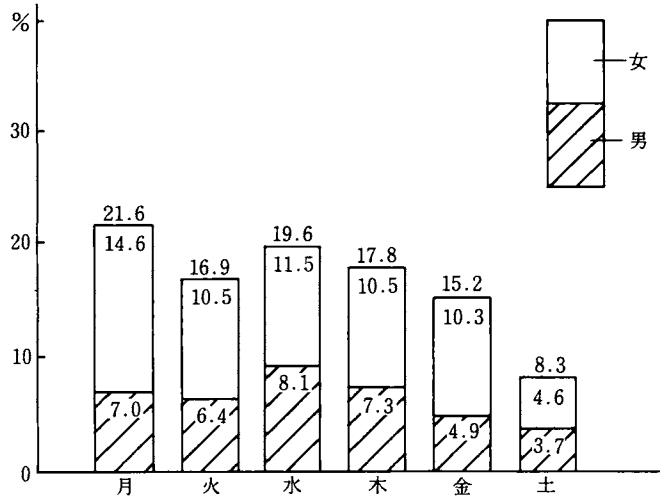


図 11 曜日別主訴状況

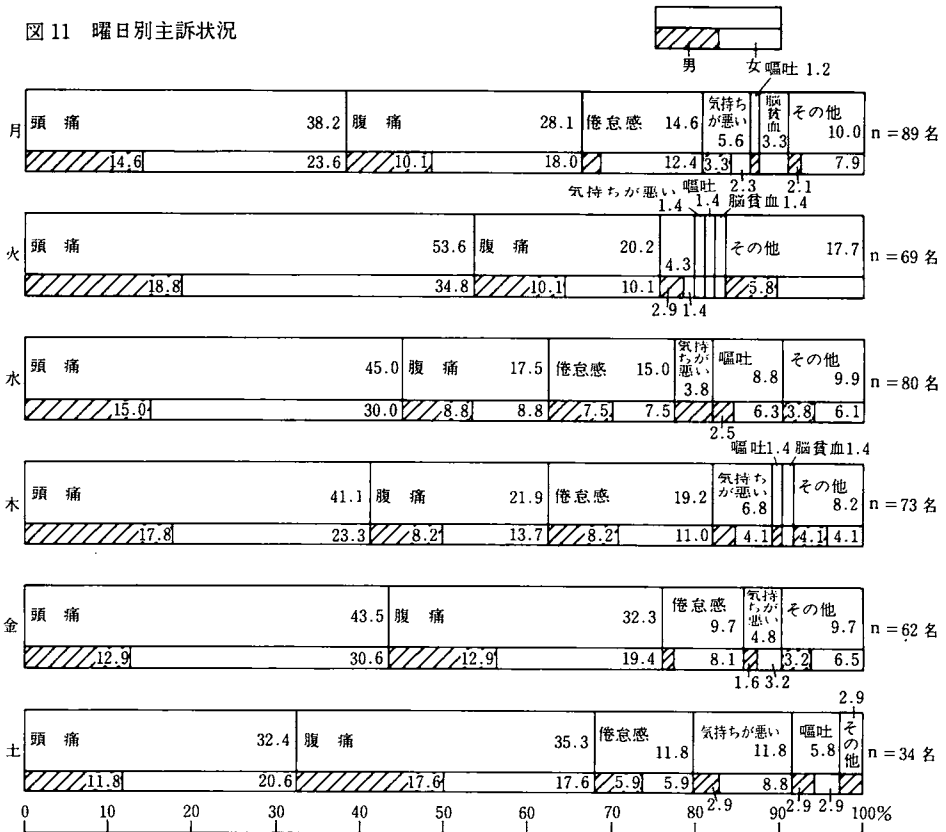


図 12 朝食摂取状況

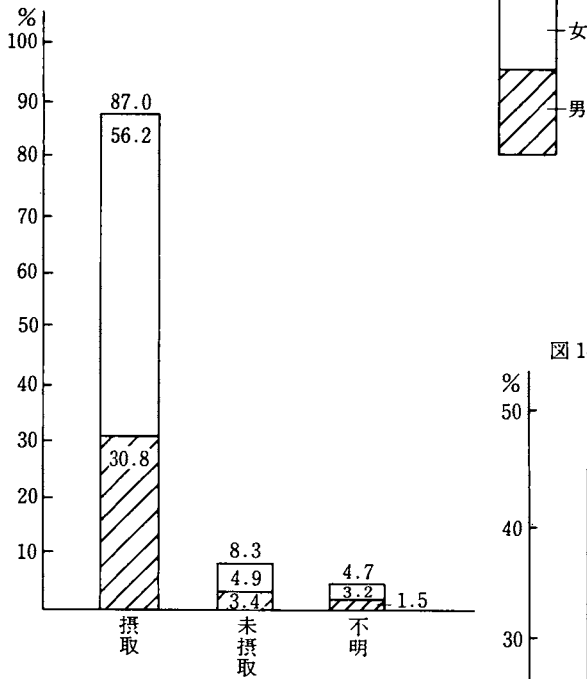


図 14 排便状況

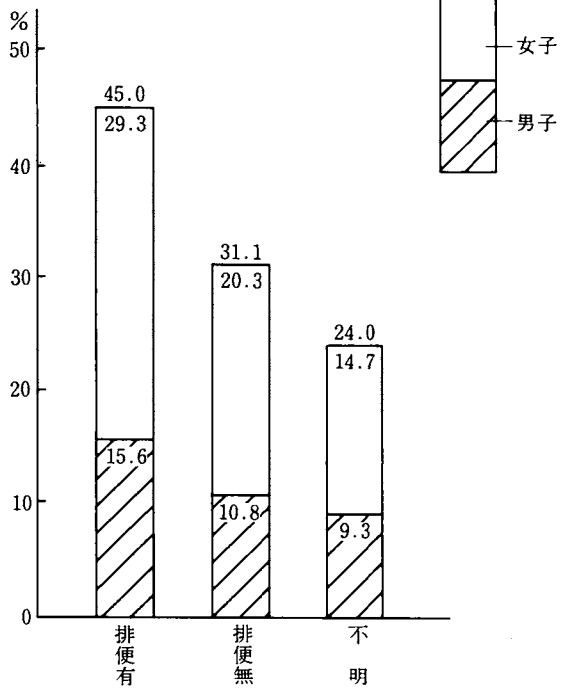
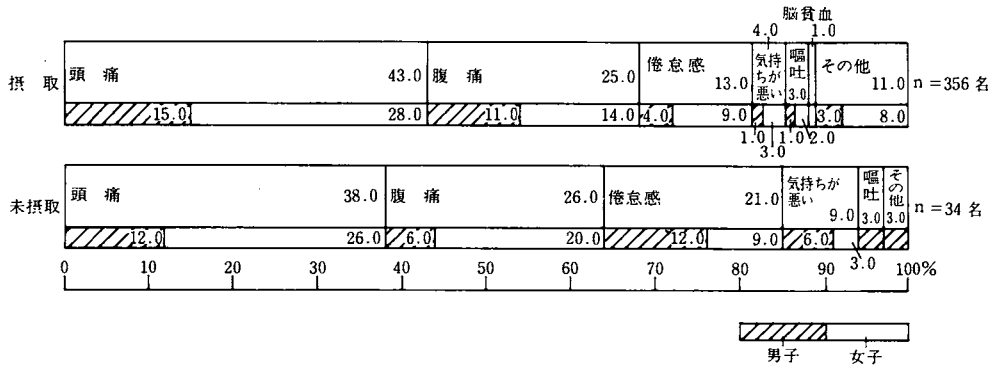


図 13 朝食摂取状況別主訴



## 6 排便状況

### (1) 排便の有無

排便の有無について図 14 に示した。

登校前に排便があった者は 45.0%、無かった者は 31.1%、不明 24.0%であった。男女別にみると排便の有った者は男子 (15.6%)、女子 (29.3%)、無かった者は男子 (10.8%)、女子 (20.3%) であった。

### (2) 排便状況と主訴

排便の有無と主訴との関係を図 15 に示した。

排便のあった者のうち最も多いのは頭痛 42.9%、次いで腹痛 29.3%、倦怠感 13.6%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛 (13.0%) であり、女子では男子と同じく頭痛 (29.9%) であった。

排便の無かった者のうち最も多いのは頭痛 44.1%、次いで腹痛 22.0%、倦怠感 13.4%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛 (12.6%) であり、女子では男子と同じく頭痛 (31.5%) であった。

## 7 睡眠状況

### (1) 睡眠時間

来室者の睡眠時間について図 16 に示した。

睡眠時間で最も多いのは 9 時間 21.5%、次いで 10 時間 16.9%、9 時間半 15.6%と続いている。このうち男子で最も多いのは 9 時間 (7.8%) であり、女子では男子と同じく 9 時間 (13.7%) であった。

### (2) 睡眠時間別主訴

睡眠時間と主訴との関係を図 17 に示した。

いずれの睡眠時間においても頭痛 (25~50%)、腹痛 (18.7~50%) が多く、倦怠感、気持ちが悪くなど続いている。

男女別にみても、ほぼ上記と同様の傾向であった。

図 15 排便状況別主訴

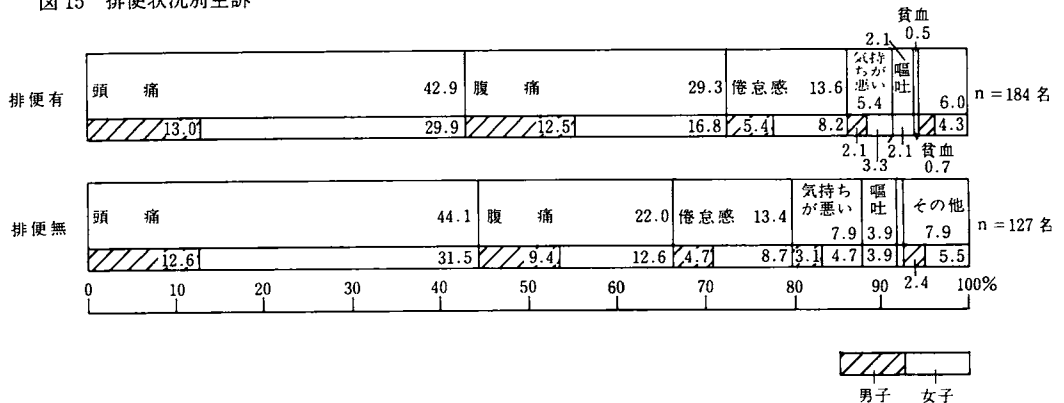


図 16 睡眠時間

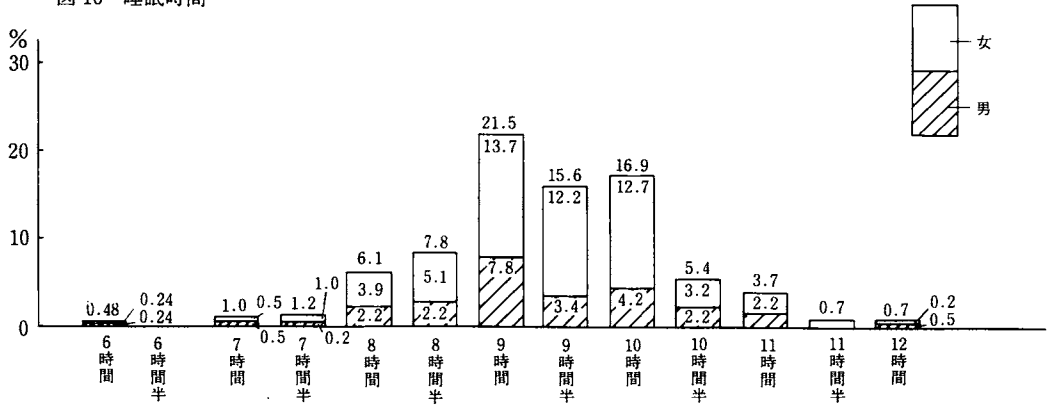
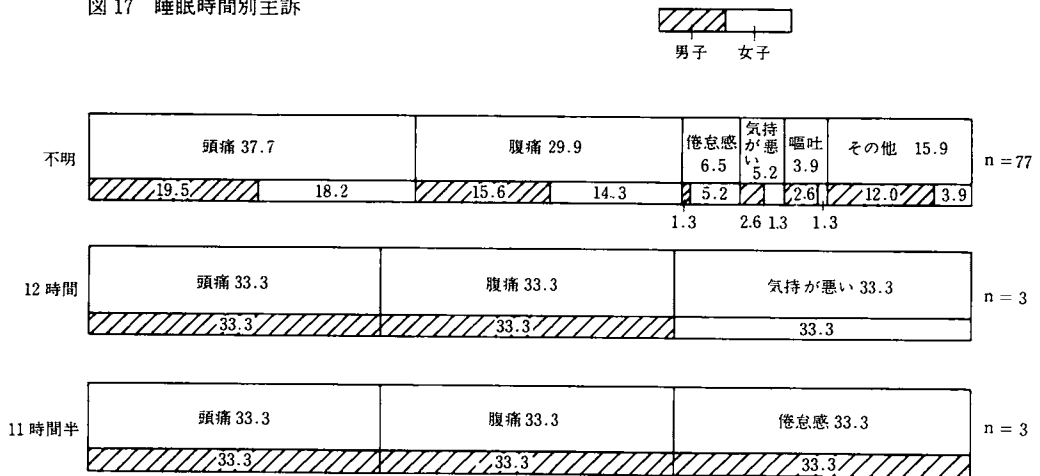
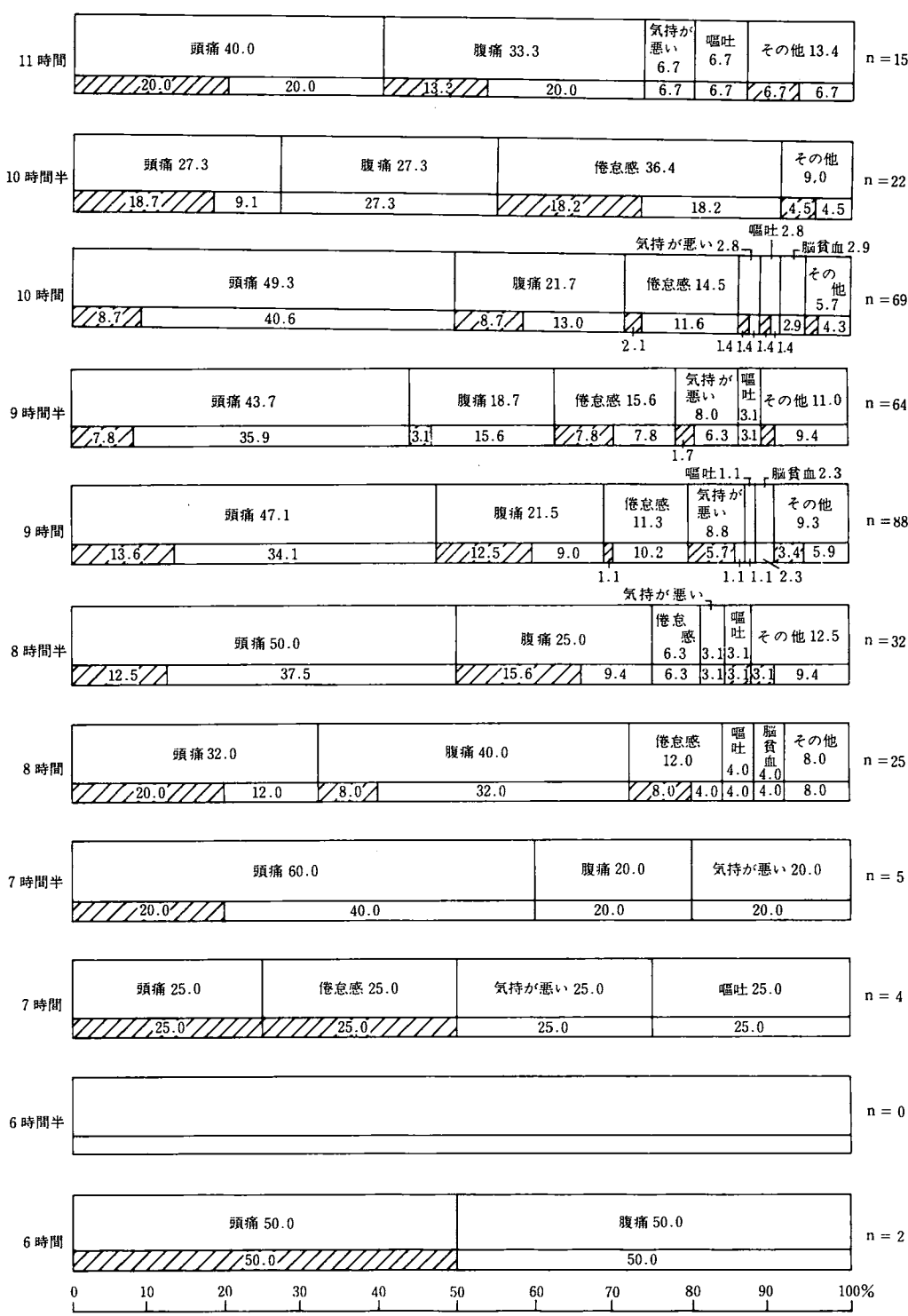


図 17 睡眠時間別主訴



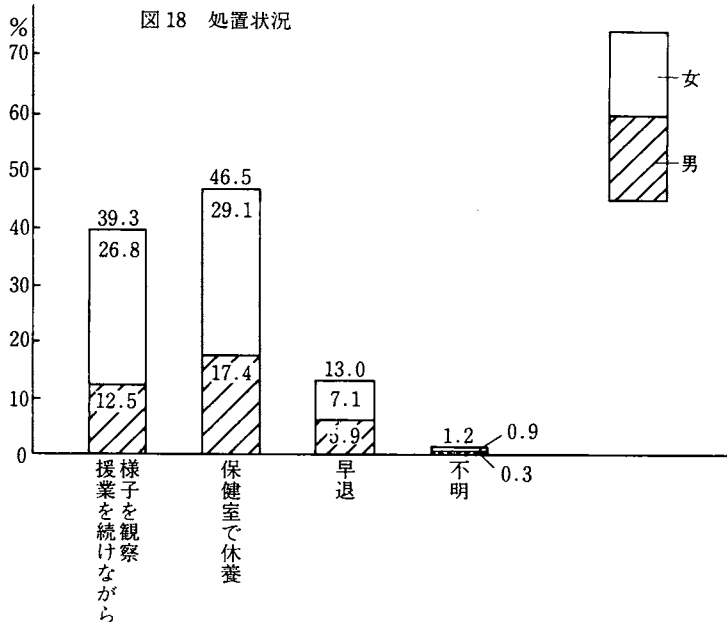


## 8 処置状況

### (1) 処置の対法

保健室来室後の処置状況を図 18 に示した。

最も多いのは保健室で休養させた 46.5%、次いで授業を続けながら様子を観察した 39.3%で続いている。このうち男子で最も多いのは保健室で休養 (17.4%) であり、女子では男子と同じく保健室で休養 (29.1%) であった。

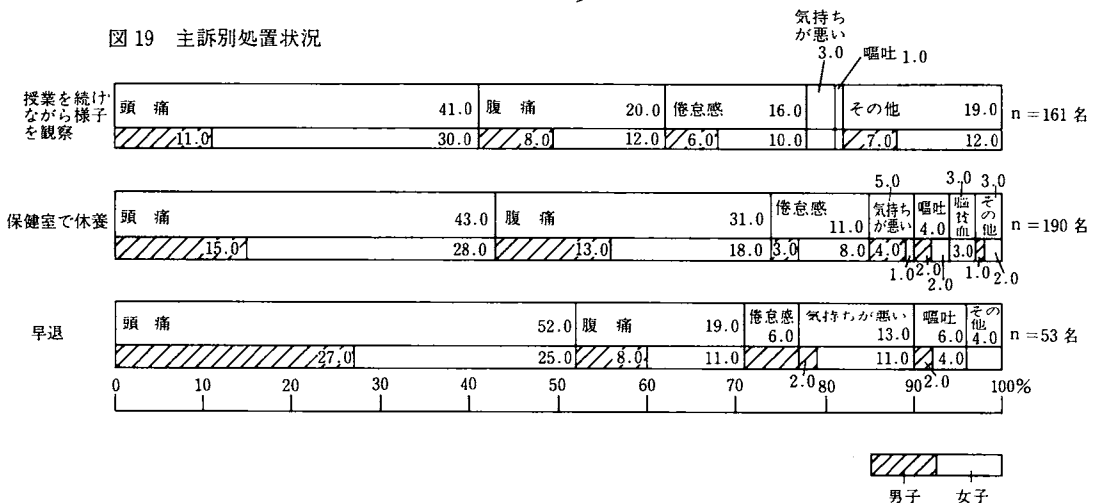


### (2) 処置別主訴

処置状況と主訴との関係を図 19 に示した。

授業を続けながら様子を観察した者のうち最も多いのは頭痛 41.0%、次いで腹痛 20.0%、倦怠感 16.0%と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛 (11.0%)、女子では男子と同じく

図 19 主訴別処置状況



頭痛（30.0％）であった。

保健室で休養した者のうち最も多いのは頭痛 43.0％、次いで腹痛 31.0％、倦怠感 11.0％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛（15.0％）、女子では男子と同じく頭痛（28.0％）であった。

早退させた者のうち最も多いのは頭痛 52.0％、次いで腹痛 19.0％と続いている。このうち男子で最も多いのは頭痛（27.0％）、女子では男子と同じく頭痛（25.0％）であった。

#### IV 考 察

##### 1 来室状況

主訴別割合の結果は頭痛が 43％と最も多く次いで腹痛 24.9％であった。

町田ら<sup>3)</sup>の報告では頭痛 27.5％、腹痛 24.2％であった。

本調査結果と町田らの結果では腹痛は同じ傾向を示したが頭痛の項目で本調査結果が約 15％強上回った。この原因は両調査期間が大きな要因となっているものと考えられる。すなわち町田らの調査期間は春から初夏（6月1～30日）にかけたものであるが、本調査期間は秋から冬（9月～12月）にかけたものであった。そのために本調査対象児童が感冒にかかる率が高かったものと推察される。

来室時間帯状況では最も多かったのが3限～昼休みにかけての来室で、次いで1限～2限の間の来室であり、これに始業前の来室を加えると午前中に 91.9％もの児童が来室していることになり、町田ら<sup>3)</sup>の報告値 92.0％とほぼ同じ結果であった。午後の来室が 6.6％と少なかったのは、午後になると低学年が帰宅してしまうことに加えて帰宅時間が近いことから少々の身体異常では来室せず、授業終了後早目に帰宅し休養する児童が多いためと考えられる。

##### 2 発 症 状 況

発症時間について、昨日からと朝からの発症を合わせると 41％強にも達している。このことは登校以前に何らかの身体異常があったにもかかわらず無理して登校し、保健室へ来室したもので家庭での朝の健康観察、健康管理の見直しの必要性が感ぜられる。

一方、登校後が 55％強と主訴の過半数を占めていることは時間の経過にともなう生理的な変化によって主訴が発生したものと考えられるが、一方、教科課目の好き嫌いによってと仮性頭痛や腹痛が多生しているものと考えられよう。

##### 3 学年別来室状況

各学年人数に対する来室児童数の割合は5年生 73.6％と最も多く、次いで4年生 69.7％であった。このことは5年生では10人に7人強、4年生で10人に7人弱の児童が来室していることになり、児童の保健室の依存度に驚かされる。

一方、1年生では 32.5％、2年生 27.9％と5・4年生に比較すると保健室を利用する割合は比較的少いと云えよう。

5・4年生の保健室利用度が高いのは学校生活や保健室の性格を十分理解しているためにちょっとした身体の変調で安易に利用しているものと考えられる。すなわち処置状況の結果で見えてきたように保健室に来室した児童で早退しなればならない児童はわずか 13％であったことがそのことを示している。



一方、1・2年児童の保健室利用率は高学年とは逆に低い数値であったが、これは高学年のように保健室の性格や利用方法などを十分理解していないために少々の身体の異常では保健室を利用しなかったものと考えられよう。

#### 4 曜日別来室状況

月曜日の来室者が最も多いものの、土曜日を除いて他の曜日との間に大きな相違は見られなかった。このような結果は町田ら<sup>3)</sup>や石川<sup>2)</sup>の報告と同じ傾向であった。

土曜日に特に来室者が少なく他の曜日で多いのはどのような理由によるのかは本調査では明確な結論を引き出すことは難しい。しかし、一般に云われているように週の初めは土・日曜日の疲労が未だ十分とれないために来室者が多く逆に土曜日は週末ということから来室者が少ないものと考えられる。

#### 5 朝食摂取状況

一般に社会人は朝食未摂取者が比較的多いと云われているが、本調査では87.0%の児童が朝食を摂取していた。

一方、朝食摂取状況別主訴(図13)を検討してみると朝食摂取者356名、朝食未摂取者34名である。両者の間には約10倍の開きがあり、保健室を訪れる児童は朝食摂取者の方が圧倒的に多い。

朝食摂取児童が未摂取児童に比して圧倒的に多く保健室を訪れるその原因は今後の詳細な研究に待つとしても、腹痛に関して言えば、その原因は図15(排便状況別主訴)から明らかのように朝食を摂取する、しないに関係なく発生していることが注目される。

#### 6 排便状況

排便の有無では排便せず登校して来る児童が30%近くを占めていたが、これは排便の習慣づけが十分なされていないことを示すもので保健指導面だけではなく、家庭での指導強化を望まなければならない問題である。

一方、排便状況別主訴をみると排便して登校した児童(184名)と排便せず登校した児童(127名)ともに腹痛は第二位を占めており、腹痛の原因として排便の有無はとくに関係が無いものと思われる。

#### 7 睡眠時間

一般に児童に望まれる睡眠時間は大旨9時間程度であるが本対象児童においては9時間以上取っている児童は60%強である。一方8時間の睡眠しか取っていない児童が8%強いる。

睡眠時間と熟睡の程度は児童にとって、栄養や運動とともに発育発達に不可欠の条件であるから、この点については今後、現場で十分指導しなければならない点である。

#### 8 処置状況

授業を続けながら様子を観察39.3%、保健室で休養46.5%、両者合わせると80%以上の児童は一旦保健室に来るものの来室児童のほとんどはその後授業に復帰している。このことは大した症状でもないのに来室をしていることを示すと同時に保健室に来ることによって苦痛が軽減されていることをも示すもので、保健室が休養及び苦痛軽減の場として重要な役割を果たしているものと考えられる。

## V ま と め

### 1 来室状況

#### 1) 主訴別割合

頭痛が43.0%で最も多かった。

#### 2) 男女別来室状況

女子の来室は64.1%と男子は35.9%であった。

#### 3) 男女別主訴

男女共に頭痛、腹痛、倦怠感の順に多かった。

#### 4) 来室時間帯

3限～昼休みに来室する者が44.5%と最も多かった。

#### 5) 来室時間帯別主訴

始業前を除いていずれの時間帯においても頭痛が42.9%～44.4%と最も多かった。

### 2 発症状況

#### 1) 発症時間

登校後の発症が55.3%と最も多かった。

#### 2) 発症時間別主訴

昨日、朝から、登校後とも頭痛、腹痛が多かった。

### 3 学年別来室状況

#### 1) 来室者総数に対する学年別割合

4・5年生が23.4%と最も多かった。

#### 2) 学年人数に対する来室児童数の割合

5年生が73.6%と最も多かった。

#### 3) 学年別主訴

各学年とも頭痛と腹痛で過半数を占めていた。

### 4 曜日別来室状況

#### 1) 曜日別割合

月曜日が21.6%と最も多かった。

#### 2) 曜日別主訴

各曜日とも頭痛、腹痛で過半数を占めていた。

### 5 朝食摂取状況

#### 1) 朝食摂取状況

87.0%の者が朝食を摂取していた。

#### 2) 朝食摂取状況と主訴

朝食を摂取した者のうち最も多かったのは頭痛43.0%であった。

未摂取の者のうち最も多かったのは頭痛38.0%であった。

## 6 排便状況

### 1) 排便の有無

登校前に排便が有った者 45.0%、無かった者 31.1%であった。

### 2) 排便状況別主訴

頭痛、腹痛で過半数を占めていた。

## 7 睡眠時間

9時間睡眠を取っている者が21.5%と最も多かった。

## 8 処置状況

保健室で休養させた者 46.5%と最も多かった。

(尚、本稿の作成に当っては金沢大学保健体育科の先生方に参考資料や御指導をたまわりました。ここに深く感謝し、御礼申し上げます。)

### 引用・参考文献

- 1) 金子仁ら 教育小六法 学陽書房 1981
- 2) 石川良子 「保健室を利用する児童や欠席児童と気象条件等の関係について」保健の科学 第23巻第11号 p 277~780 1981
- 3) 町田博子ら 「保健室を訪れる児童の実態について」健康教室第28巻12号 p 63~73 1977
- 4) 新田利子ら 「生徒の保健室利用状況および養護教諭観についての研究」健康教室 第29巻第10号 p-52~60
- 5) 大島一夫 「学校保健の主導者は誰か」健康教室 第30巻第14号 p 18~23 1979
- 6) 坪井芳雄 「保健室は学校保健の顔」健康教室 第30巻第14号 p 24~26 1979
- 7) 小畑慶子 「高校生徒の保健室利用状況と養護教諭」健康教室 第33巻第3号 p 28~31 1982